

平成29年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

I. 交付金対象事業	種別	<input checked="" type="radio"/> 加速化交付金	<input type="radio"/> 広域
		<input type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 単独
① 国への申請事業名	阿波遍路道（古道）を核とした小松島魅力再発見事業		
② 取組内容・目指す姿	遍路道を活用して交流人口の増加を目指す。	担当課	産業振興課
		事業期間	平成28年度

II. 事業内容	
③ 本市における実施事業名	④ 事業概要
6次産業化支援事業 総合戦略p17, 資料3 p18参照	・地元産品の開発補助および産直市などへの開発品の仕入れに繋げる。
文化財保護事業 総合戦略p22, 資料3 p27参照	・四国霊場第18番札所恩山寺から19番札所立江寺にかかる遍路道の国指定史跡を目指す。 ・遍路文化を通じた観光客への「おもてなし」の心の醸成を図る。
客船入港歓迎事業 総合戦略p21, 資料3 p25参照	・徳島小松島港のうち本港地区および金磯地区、赤石地区に入港する国内外の大型客船の乗船客を対象に、本市で滞在してもらえる観光メニューの開発ならびに情報発信を行う。
農林水産ブランドソフト事業 総合戦略p18, 資料3 p26参照	・本市特産の「はも」や「しいたけ」、「ちりめん」、「竹ちくわ」、「フィッシュカツ」などの知名度向上を図る。
観光プロモーション事業 総合戦略p21, 資料3 p25参照	・阿波遍路道を歩き四国霊場をめぐる動機付けとともに、観光スポット以外の本市特有の歴史や文化、食、自然などの魅力を発信するツールづくりを行う。

⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)				
年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・遍路道（古道）の魅力再発見に向けたコーディネート ・滞在型観光客の受入態勢強化 ・新たなブランド産品の開発研究及び販路拡大 	これまで機能性の低かった本市観光情報媒体の再構築をはじめ、新たに歩き遍路に対応できる観光パンフレットを作成するとともに、遍路道保存に向けた市民への意識醸成を図った。また、本市の産品を活用した新商品の開発に向けた取り組みや海外への販路拡大の検証を実施、国内外大型客船が入港する強みを活かした事業を実施した。これらの事業により目標指標を達成できた。一方で課題も抽出することができた。	当初予算額	17,300,000 円
			実績額	15,148,030 円
			補助金額	15,148,030 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)	単位	H27	H28		→立江寺宿坊宿泊者数 H27 1,560人 H28 1,966人
		基準値	目標値	実績値	
1 産直市場買い物客数	人	622,000	623,000	625,134	
2 日本遺産登録施設年間訪問者数	人	74,000	75,000	1,966	
3 観光案内所年間利用人数	人	3,903	4,000	4,691	

⑦ 官民協働・自立性
<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイドと協働した遍路道ガイドマップ作成および動画監修 ・遍路道保存に向けた市民講座の開催や環境整備および美化活動 ・本市特産物の素材を活かした新産品の企画、検討、開発

Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<p>・観光ボランティアガイド協力会と協働で作成している遍路道ガイドブックは大変好評とのことで、観光客の満足度も高い。</p> <p>・民間と協働し、観光用ホームページの作成、体験型ツアーの開発協議や恩山寺での遍路客に関する調査を実施しているようだが、観光客の通る遍路道の竹林清掃が必要ではないか。</p> <p>・遍路道の美化活動には、行政と、地域の方の理解とそれからもう一つは、NPOなどの活動が非常に重要。その機運を高めていくことは重要。</p> <p>・外国客船が次々入港の際、市内の循環バスを運行し、小松島市内を訪れてもらったり、岸壁で、特産品の試食や販売をすることにより、小松島市の特産であるあの竹ちくわおいしかったなあと思ってもらえたりと、小松島市について理解を深めていただいたということになる。</p>	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない、との意見</p>

⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	B	地域の強みである四国八十八箇所霊場の2箇所とそれを結ぶ遍路道、また四国一の売り上げを誇る産直市を中心にPRすることで、観光スポットとして光を浴び、交流人口の拡大のきっかけになるとともに、地元製品の販路拡大に繋がられ、目標設定していた指標を達成することができた。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	事業実施により全体的に大きく実績値が伸びることはなかったものの、目標値は達成できた。また、KPI2においては今回、宿坊宿泊者数値の設定に変更記載しているが、基準値（H27）のその数値は1,560人であり、四国霊場遍路道を中核としたこの事業実施により26%増加した。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	A	交付金による本事業は平成28年の1年間をもって終了するが、本事業の成果を継続、課題を改善しつつ総合戦略に基づき引き続き推進していく。

⑨ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）